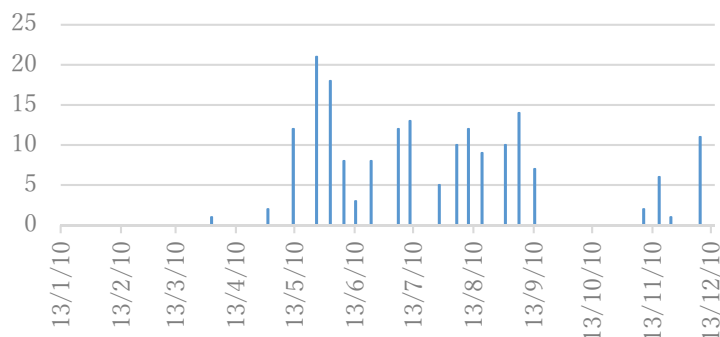


資料3 2区におけるオナガの生息数推移の経年変化(剪定作業の影響)

図は、その年の全調査日に、2区において計測されたオナガの数をグラフにしたもの。

2013年

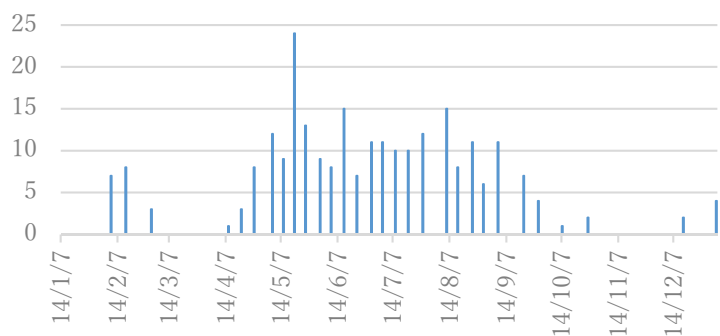


2013年 調査日数 33日

初夏に数が多くなり秋まで多数生息し、冬には減少するパターン

初夏から秋にかけての繁殖期では5月がピークで20を超え、前後で10を超える日も多い。

2014年



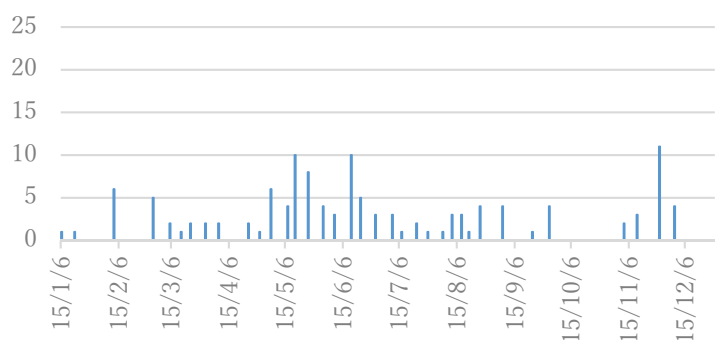
2014年 調査日数 50日

2013年と同様の傾向を明確に示している。

繁殖期においては5月に20を超えるピークを迎え、前後で10を超える日が多い。

この年の6月10日、オナガが繁殖していると思われる木の周辺一帯の大規模な剪定が行われた。多くのオナガが、近くの電線や建物などにとまって外敵に襲われた時の声を出し合い、落ち着かず付近の移動を繰り返していた。

2015年

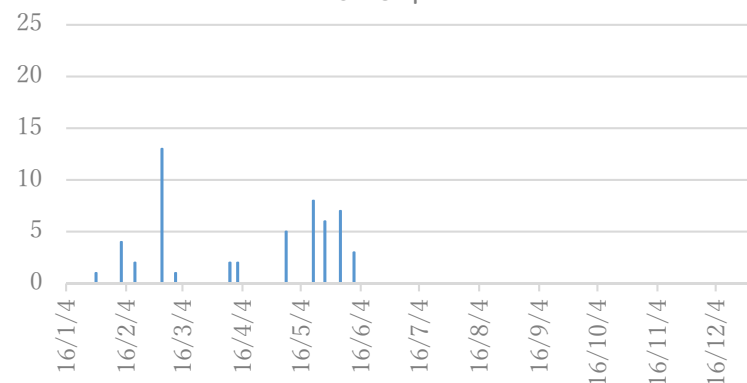


2015年 調査日数 52日

全体的に計測数が大きく減少した。

年間を通して、10以上となったのは3回で、5~6月に10羽が2回、11月に11羽が一回確認されたのみ。年間の動向も繁殖期にピークを迎えるパターンが失われたように思われる。

2016年



2016年 5月まで 調査日数 22日

2015年から16年の5月までで最大の13羽を2月22日に計測したが、2014年以前のパターンはなく、5月のピークも8羽にとどまっている。